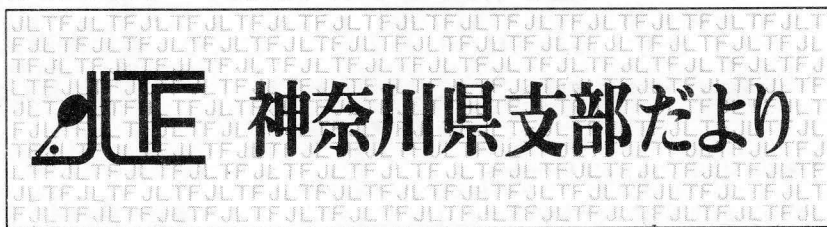


第30号



10周年を迎えた「支部だより」

その歩み

かもめは翔んだ

今から10年前、1981年（昭和56年）4月10日日本女子テニス連盟神奈川県支部だよりが創刊されました。初代事務局広報担当、梶田氏の尽力により、県鳥でもあるかもめが飛翔しているシンボルマークと共に第1号は、はばたきました。

日本女子連が、昭和43年1月に結成され、神奈川県支部は翌44年4月に武石氏を支部長として13名の会員で発足したことは既にご存知でしょう。それから10年余り、昭和56年度は折りからのテニスブームで会員も千名を越す大所帯になり、会員相互の親睦と県支部の行事を広めるためにも広報紙を是非という要望があり、武石氏から伊波氏へ支部長交代した新体制下で誕生した次第です。この「支部だより」は、年3回、4月、8月、12月に発行され、今回30号を迎えました。全国版の日本女子連会報（年1回発行）と県支部だよりで、全国的動向と県内の様子をお知らせしています。

「支部だより」の10年の歩みは、神奈川県女子連の歩みでもありますから、年中行事の各ブロック別及び県支部のシングルス・ダブルスの試合、新人戦ともいえるMMC桑名杯、熟年50才以上の武石杯、コカ・コーラ杯、朝日レディース杯は定番記事ですし、他に親睦行事のすみれ会・45会、関東八都県大会などがあります。それからフェデレーションカップはトップ記事でした。神奈川県女子連が10周年、15周年、20周年を迎えた時の特集記事を含めて、この「支部だより」はとりもなおさず、支部長以下約2600人からなる女子連会員のたゆまない努力の積み重ねと、その実績にほかならないと、心に深く感じました。

左記の如く、支部だよりは10周年を迎えました。そこで飛翔するかもめを支えた歴代編集者がそれぞれの感慨を胸に一堂に会しました。初代梶田氏は、開拓者さながらの功労者。「とにかく出そう、支部だより」と伊波新支部長の号令一下、聞くも涙、語るも涙、かもめマークを考案し、創刊号無事飛翔。続く新田氏は、その辣腕ぶりを如何なく発揮し、支部だよりを県下にしっかりと定着させ、三代目に“簡単よっ!”の一言を申し送りしましたが、その言葉を鵜呑りする楽天的伝統は堅く守られています。(アナ、恐ロシ恐ロシ) 広報誌ですから、行事や会計の報告・役員名簿掲載などが、まず第一です。そして各編集氏の腕の見せどころ、個性ひとふり。3代鈴木氏は県下のちょっと素敵なクラブめぐりで好評を博し、4代酒井氏は豊富な人脈を駆使した談話や、海外帰国者のテニス話、5代横井氏は、身近になった女子連審判部の国際的活躍の紹介で神奈川県審判部ここにありの名を轟かせました。現編集長茂原氏は、主婦とテニスのふれあいをテーマに、会員と密着したテニス論を追求中。どの編集氏も興味をもって読んでもらえる支部だよりがモットーでした。

最後に、高齢化していく社会と私達会員のかかわりを、ボランティアを含めて「支部だより」に反映させ、翔くかもめ号にしたものだと一同深く思いをこめた会合でした。

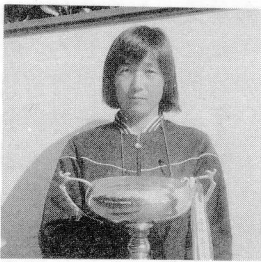
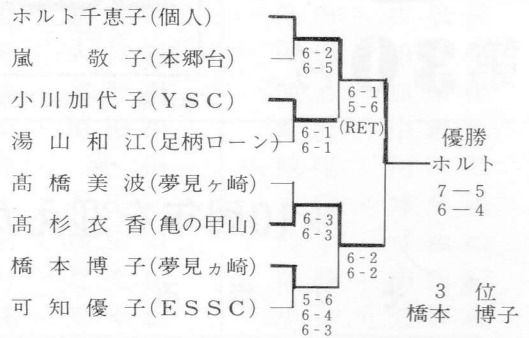
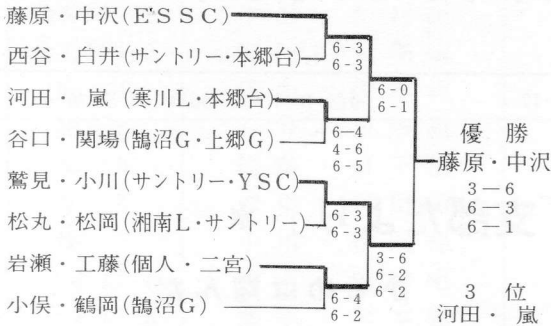


第23回 県支部シングルス・ダブルストーナメント

とき 10月29日～11月2日 ところ 荏原湘南スポーツセンター

藤原・中沢組優勝!! ダブルス
参加 23組

ホルトさん2度目の優勝!! シングルス
参加 20組



「コンビネーションの良さが、勝利の原動力となりました」(中沢)「自分が落ちこんだ時、どこで調子を立て直すかが一番難かしかった」(藤原) 藤原さん、二年連続優勝。



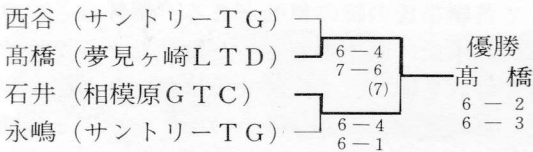
「決勝戦は2セットとも相手のリードを追いかけ挽回する試合展開だったので、やっと勝てたというのが実感です。米国でのトーナメント経験が役に立ちました」(ホルト)

ブロック別シングルストーナメント

Aブロック 参加 108名

とき 10月2日～4日

ところ 横山公園テニスコート

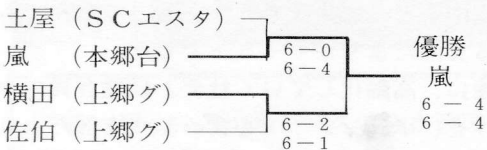


「日頃お世話になっているコーチ・仲間達のお陰で優勝できましたありがとうございました」(高橋)

Bブロック 参加 128名

とき 10月1日～3日

ところ 本郷台テニスクラブ

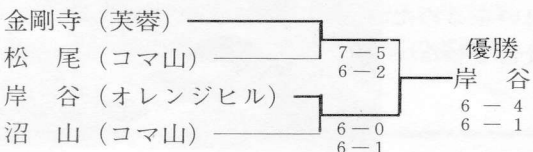


「夏からこの大会を目標に練習に励んできました。自分にプレッシャーをかけながらもこれだけ頑張れ良かったです」(嵐)

Cブロック 参加 124名

とき 10月2日～4日

ところ 桃浜コート・湘南ローン



「楽な試合は一つもありませんでした。皆ベテランばかりで緊張しましたが、優勝できて嬉しいです」(岸谷)

第 8 回 武 石 杯

と き 10月29日～11月2日

と ころ 荏原湘南スポーツセンター

60才以上 参加 8組

小松・小林(本郷台・湘南口)	}	優 勝	増田・塩野入		
増田・塩野入(希望ヶ丘・二宮)				5-6	6-3
星・白石(鎌倉宮カ・青葉台田園)				6-1	6-3
渡会・木太(コマ山・東林間)	}	7-6 (3)			
				6-2	5-7
			6-3		

2時間を越えるフルセットの試合が終り、ベンチに戻った四人。「本当に良く頑張りましたねえ」とお互いに健康でテニスが出来ることを喜びあっていたのがとても印象的でした。「負けてあたりまえ、と思っていたので夢みたいでず」と優勝組。

55才～59才 参加 6組

小野・岩本(湘南口・鎌倉宮カ)	}	優 勝	小野・岩本
鈴木・越川(湘南口・寒川口)			
出光・三好(湘南口・二宮)	}	6-1	6-4
寺井・伊藤(鎌倉いずみ)			
			7-5

一昨年、昨年に続き武石杯に優勝した小野さん。岩本さんとのペアで全日本ベテランにも出場しているだけあり、実力通りの優勝。

「試合に臨む時は、暮々もコンディションの調整に注意して下さい」と、ベテランよりアドバイスをいただいた。

50才～54才 参加 25組

田淵・宇野(タチバナ・湘南口)	}	優 勝	田淵・宇野
谷村・足立(上郷グ)			
佐藤・西牧(横浜グ・サンブリッジ)	}	6-4	6-3
新田・中野(鶴沼グ・寒川口)			
			6-2

エントリー数25と益々皆の注目を集めている50才～54才組。現役組も多数おり、年を感じさせない、ハイレベルの試合がみられた。

「優勝はしたけれど、勝つということはとても大変」激戦を振り返りながらの宇野さんの言葉でした。



増田・塩野入組



小野・岩本組



田淵・宇野組

審判をして 馬 淵 久 子

審判を始めて、もう5年目に入る。ここ最近を振り返ってみるとフェデレーション、PPO、サントリージャパン、全日本、JALカップ、ニチレイレディース、そして朝日レディース、とよくまあ行ったものだ。

以前は、テレビ、雑誌などでしか知らなかった一流選手の審判をこの私がする。これほど、びっくりする事はない。

何年前か、JALカップの決勝戦での事だ。スマッシュが私の目の前にきた。私は思わず、グッドシグナルを出した。選手が大声で叫んだ。テレビが、そして皆の目がじっと私を見た。体中の血が頭にのぼり、何も目に入らない。私はミスをしたのだと、ひしひしと感じた。スマ

ッシュに目がついていかず、残像だけを見てしまったらしい。ひたすら、消えてなくなりたいと願い、シグナルを出しつづけた。

こんなミスを何回した事か？ 二度と再び、審判はすまいと、何回心に誓った事か？その度に、皆になぐさめられ、励まされて今日まできた。しかし思うに、神奈川にいて、テニスに明け暮れているからには、今のこの審判にいけるとい、このチャンスを無にはしたくない。世界一と言われる人と同じコートで、同じ思いを味わい、体中で力強さを感じる。すばらしい事ではないか！一年に何回か、審判でしか会わない友達も沢山出来た。心楽しいものだ。レンドルだ、ナブラチュロワだと、いかにも親しげに話し合っている今が最高！皆様もぜひどうぞ！

第 12 回 朝日レディーステニス大会

神奈川県大会

9月3日より県内5ヶ所で522組の参加で始まった県予選。そして緑テニスガーデンにて行われた県本選は、大勢の応援の中、例年にもれずシード組が順に姿を消し、なが年組み込んだペアが三つの代表の座を勝ちとった。

- 優勝 舛田・岩里組(希望ヶ丘・コマ山)
- 準決勝 佐藤・日下組(希望ヶ丘)
- 第3位 鶴岡・小俣組(鶴沼グリーン)
- 第4位 松丸・松岡組(湘南ローン・サントリー)

全国決勝大会

11月7日より都立有明テニスの森公園で行われた全国決勝大会は、福岡の優勝で幕をとじました。本県勢は2回戦より出場し、大阪府(準優勝チーム)と対戦したが、第三試合までもつれる接戦の末惜しくも敗退した。

勝敗はどちらに転んでも不思議でないほど実力伯仲の試合でした。このくやしさをばねに、来年は一まわり大きくなって全国大会にのぞみましょう。

朝日レディースを終えて 監督 間宮 茂子

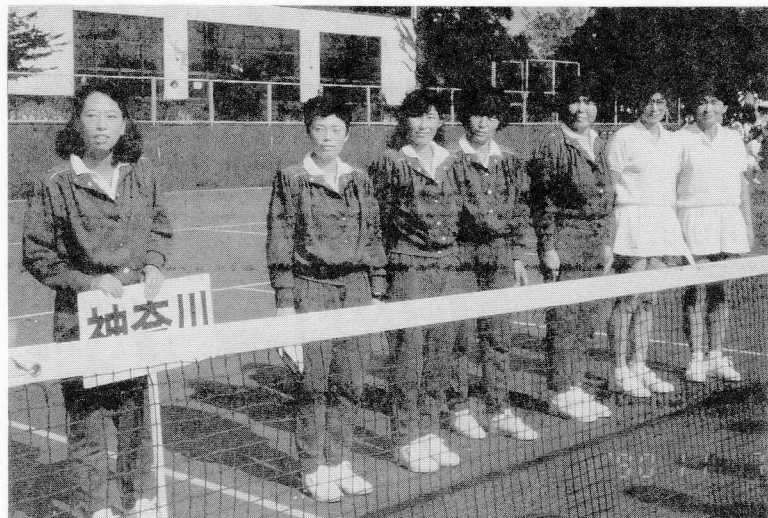
第12回朝日レディース全国決勝大会を終え、県テニス協会、女子連県支部の役員および会員の皆様、朝日レディースOG会、各所属クラブの方々のご協力・ご支援をいただき有難うございました。また、遠路有明テニスの森公園まで足をお運び応援・激励をして下さいまして感謝いたしております。書面をおかりしてお礼を述べさせていただきます。

まだまだ未熟な私が、監督という大役をお引き受けすることになり、期待と不安の交錯の中練習会が始まりました。「チームの和」をモットーに週二日間、朝から夕方というハードな練習に、選手達は不平不満どころか、私が煽られてしまうくらいの熱心さに頭が下がりました。家庭の暖かな応援で、心身共に充実して本大会に臨むことが出来たのではないかと思います。ただ残念な事に初戦敗退という結果になりましたが、私共この一ヶ月間で得た経験は、生涯で貴重な体験ではないかと思います。この教訓を生かし邁進していきたいと思ひます。

岩里弘子・舛田正子組

三年間、汗と涙と笑いを共にしたパートナーと全国大会出場の切符を手にした時、言葉では言えない喜びでパートナーの顔がかすんで見えました。舛田さん有難う。そして、私達を三年間支えて下さった方々、心からお礼申し上げます。

全国大会には一ヶ月の練習会でチームワークも出来、用意周到の構えで臨みましたが、残念な事に今度も私の目標は達成できませんでした。三日間、全国の選手のガッツと、粘りと、詰めの良い、素晴らしいテニスを勉強しました。くじ運ではなく、全国No.1に勝てなくては、優勝はないのだと言う事を肝に命じ、新たな目標を目指して、自分の納得の行く迄頑張りたいと思ひます。皆様、暖かいご声援有難うございました。(岩里)



朝日レディース
テニス
全国大会

中高	赤	今	北大	
原	松	井村	阪	▽2回戦
渡沢	2	2	0	
76	66	64	2	
11	11	76	1	
54	34	76	1	
0	0	2	神奈	
岩舛	日佐	鶴小	奈	
里田	下藤	岡俣	川	

岩里・舛田のペアで、やっと三年目に手にしたキップでした。

それがあつという間に終わってしまった、もう少しやらせてもらいたかったのに本当に残念でした。大阪は強かったけれど、あとから考えるともう少しやりようがあったのに、やはり冷静さに欠けていたのでしょうか。

でもあの前へ出る時のつめの良いテニス、困ったボールの処理の仕方、ねばり強さ、スマッシュ、サーブ、その上にあのファイト、すべて本当に勉強になりました。試合には負けたいけれど、私の中には沢山のものが残っています。

沢山のお世話になった方々にご恩返しが出来なくてごめん下さい。素晴らしいチームにして下さった間宮さん・関場さんありがとうございました。(舛田記)

佐藤和子・日下陽子組

有明の森は、もうすっかり美しい秋につつまれていました。

思えば、朝日レディース県大会の前哨戦とも言える、暑い七月の神奈川レディーストーナメントに参加して以来、九月の県大会予選、本選を幸運にも乗切り、代表に選ばれてからの一ヶ月余りの練習会を経て、やっと有明に来る事が出来ました。

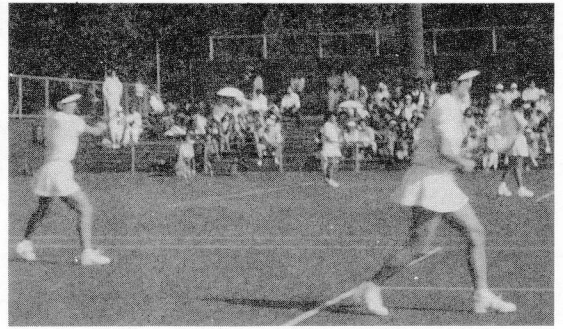
殊の外暑かった今年の夏から、季節の変わり目にも気付く事なく、多くの人達にささえられて夢中でテニスの出来たこの四ヶ月は、本当に幸せでした。

全国大会の前夜祭、大阪との対戦が決定するや、「ワー」と上がる大歓声、相手はどこでも同じ、精一杯頑張ろうと誓った神奈川チームでした。

大会初日、有明の青空の下で、どの県のどの人のどの顔も、皆輝いていました。全国大会でプレー出来る喜び、かすかな緊張、いろいろな気持ちを胸に秘めて試合に挑みました。大阪には、健闘むなしく敗れ去り残念でしたが、やはり相手が優っていました。まだまだ自分の精進がたりなかったかと反省しています。

この夏は多くの方々にめぐり逢う事が出来ました。めぐり逢えた多くの方々の教えを、これからの自分自身に又テニスに、生かせたらと思っています。

応援下さった多くの方々、陰で支えてくれたたくさんの友達、そして最良のパートナーに、良い思い出をありがとうございました。(日下記)



小俣幸子・鶴岡美津子組

予選の難関を突破して、全国大会のキップも手にした時は、喜びよりも信じられない気持ちでした。勝っても負けても楽しく試合をしようと二人で気持ちをあわせての県予選はどの試合も接戦だったけれどとても満足できるものでした。ペアを組んで4年、二人で一つのドラマを作ることを目標において積み上げてきたものが、やっとつぼみをつけたように思います。

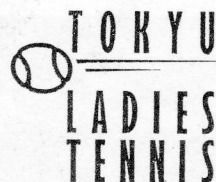
夢のような思いで始まった練習会では、間宮監督の暖かいご指導のもと、チームワークの大切さを学びチームメイトに支えられて数々の事を教えていただき経験の浅い私達にとって貴重な体験となりました。この貴重な体験をもとにこれからも、楽しくテニス出来るよう二人で頑張りたいと思います。ひとつの出会いから素晴らしい方々や、仲間とめぐり逢えた事は、とても幸せだと思います。

応援してくださった方々本当にありがとうございました。(鶴岡・小俣記)

今年は朝日レディース選手団にマネージャー役として理事の関場さん(上郷グリーン)が加わりました。大変なお仕事ご苦労様でした。

第1回レディーステニス

第二の朝日レディースを目指し企画された東急レディーステニスが開催された。西関東地区大会(神奈川、静岡、山梨)は応募283組。抽選で選ばれた64組により、11月13・14日、根岸テニスガーデンで行われ、飯尾・只隈組(湘南ハンドレッド・相模原グリーン)が優勝。地区大会優勝ペア10組による全国大会は、12月4日、東京の多摩川園ラケットクラブにおいて開催され飯尾・只隈ペアは3位に入る健闘をみせた。



第1回 ブロック対抗戦 Aブロック優勝!!

とき 12月7日 ところ 泉中央テニスガーデン

ブロック別 メンバー表

	Aブロック	Bブロック	Cブロック
桑名杯No.1	中里・西村組	加地・藪内組	保田・広橋組
桑名杯No.2	町田・大場組	高橋・大録組	田川・田坂組
No. 1	田中・橋本組	菊地・尾形組	間宮・加藤組
No. 2	石井・只隈組	米山・原田組	藤原・中沢組
No. 3	佐藤・日下組	白井・嵐組	飯尾・河田組
No. 4	岩里・舛田組	森・石田組	大勝・神長組
No. 5	小川・松岡組	横田・前田組	杉本・可知組
50才以上	山下・田村組	谷村・足立組	白砂・柳田組
55才以上	飯沼・坂本組	小林・岩本組	小野・三好組

前支部長大場さんの発案により、“女子連神奈川県支部三ブロック相互の親睦を深め、女子連神奈川県支部の年末の祭典となるように”と願いつつ、初めてのABCブロック対抗戦が12月7日、泉中央テニスガーデンで開催された。

各ブロック常務理事・ブロック長をリーダーに、選ばれた9ペアでチームを形成し、リーグ戦を行ったが、天候にも恵まれ、どのペアもそれぞれに味のあるテニスを披露し、選手も応援団も役員も皆楽しい一日を過ごした。

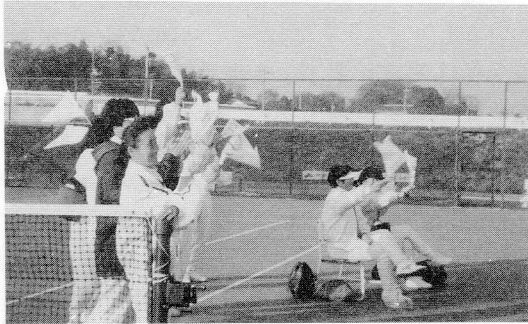
実力伯仲のなか、勝敗のポイントは最後の二試合にかかり、試合はもちろん応援合戦も見ごたえがあった。

試合結果

	Aブロック	Bブロック	Cブロック	計
Aブロック	—	7—2	5—4	2勝
Bブロック	2—7	—	5—4	1勝1敗
Cブロック	4—5	4—5	—	2敗
順位	1	2	3	



喜びのAブロック



訃報 神奈川県テニス協会常務理事 関東テニス協力参与、日本女子テニス連盟顧問の近藤たま子様は去る9月2日午後1時、心筋梗塞にて永眠されました。慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

女子連神奈川県支部結成当初より支部活動に打ち込まれ、現在の発展の基礎を築かれた諸先輩のお一人です。

◆ 編集後記 ◆

「支部だより」30号、10周年を迎え、会員の皆様にこの10年の重みをどう伝えたら良いか考えさせられました。一面の「支部だより」特集は、葉山さんの力作です。歴代編集者のご苦労が、しのばれます。

この一年、皆様の暖かいご協力をいただきまして有難うございました。

来号より、文才豊かな葉山さんに引継ぎます。ご期待下さい。(茂原)

